

だがしや楽校 2011 静岡 in 三嶋大社

がっこう
みしまたいしゃ

にちじ：2011 年 8 月 28 日（日）10:00～16:00

ばしょ：三嶋大社境内（静岡県三島市大宮町 2 丁目 1-5）

主催：NPO 法人地域活性スクランブルフォーラム

共催：沼津市老人クラブ連合会、三島市子ども会連合会

後援：静岡県、三島市、沼津市、長泉町、清水町、函南町、伊豆の国市、伊豆市、
三島商工会議所、沼津商工会議所、長泉町商工会、函南町商工会
（社）三島青年会議所、NPO 法人沼津観光協会、
三島市教育委員会、沼津市教育委員会、長泉町教育委員会、清水町教育委員会
静岡県教育委員会、函南町教育委員会、伊豆の国市教育委員会、伊豆市教育委員会
静岡新聞社・静岡放送、ボイスキュー

協力：山形だがしや楽校 だがしや倶楽部、三嶋大社

《はじめに》

今年もやってきました“だがしや楽校 2011 静岡 in 三嶋大社”。今年が第 4 回、私（山口・だがしや楽校コーディネーター）にとっても 3 回目の取材となりましたが、“だがしや楽校 in 三嶋大社”を体験しないと、夏は終わらないという感覚になってきました。

三嶋大社という神聖な場所での“だがしや楽校”は、ほかには見られません。また、市民グループから NPO、そして企業まで、実に様々な人たちがおみせ・屋台を出していることも、大きな特徴です。

山形発祥の“だがしや楽校”ですが、“だがしや楽校”を全国に広めた最大の功労者は、カバゴン先生こと阿部進さん（教育評論家）です。そのカバゴン先生が常日頃おっしゃっている「よく遊び、よく学べ」そして「お手伝いも子どもの大切な仕事」という思いから、“だがしや楽校 in 三嶋大社”の会場には“ワークショップゾーン”と“お仕事体験ゾーン”を設けました。

そして、“ワークショップゾーン”で最後まで学習（遊び）体験をしたり、子どものための“ハローワーク”を通して、お仕事を体験しますと、駄菓子屋で駄菓子と交換できるカバゴン券（だがしや楽校 in 三嶋大社で使えるエコマネー）をゲットするというシステムを構築しているのも、“だがしや楽校 in 三嶋大社”ならではの事です。子どもたちが自分で考えた仕事をしてカバゴン券がゲットできます。

多彩な屋台・おみせが出されるのも“だがしや楽校 in 三嶋大社”のひとつです。今年はそんなおみせが出させるのでしょうか。

当日は朝から青空一杯の天気恵まれています。どうやら日中は暑くなりそうです。熱中症に気を付けながら取材することにしましょう。

私が Doi さん（山形県子ども体験広場普及員）と共に三嶋大社に着いたのは、午前 9 時 30 分すぎ。すでに、山形県鶴岡市からのメンバーも到着し、準備が進んでいました。そのほかのおみせもほぼ準備ができていました。今年もたくさんのおみせが出され、お腹一杯になりそうで、取材は大変ですが、楽しみでもあります。

主催者である N P O 法人地域活性スクランブルフォーラムの皆様とも 1 年ぶりの再開です。

それでは、“だがしや楽校 2011 静岡 in 三嶋大社”の模様をご紹介します。



2011 年 8 月 28 日（日曜日）静岡県三島市の天気：晴れ 午後曇りのち晴れ

《開会式》

午前 9 時 50 分、開会式の前のセレモニーとして、白隠太鼓演奏が行われました。

●白隠太鼓

“白隠太鼓”（はくいんだいこ）とは、静岡県沼津市原にある和太鼓団体です。和太鼓大好き人間の集まりです。国籍、性別、年齢（小学生以上）を問わず、誰でも入れます。現在のメンバーは小学 1 年生～75 歳の 30 人です。今年で発足 25 周年となりました。



“白隠太鼓”という名前の由来・・・原は東海道 53 次の「原宿」という宿場町で、古いお寺が数多くある歴史のある町です。その一つ「松蔭寺」というお寺に「白隠禅師」というお僧さまがいたとのこと。

この日は“だがしや楽校”参加ということで、三嶋大社へ来る途中、75 歳のおじいちゃんが子どもたちに駄菓子屋の話をしていたそうです。

白隠太鼓は、開会式後も“だがしや L I V E / コンサート”のトップバッターとして演奏しま

した。

午前 10 時、第 4 回 “だがしや楽校 2011 静岡 in 三嶋大社” の開会式が始まりました。

◎主催者：地域活性スクランブルフォーラム理事長・古屋さんの挨拶

朝 6 時すぎ、ここ三嶋大社へ来たら、大勢の市民がラジオ体操を行っていました。その光景が三嶋大社の風景とマッチしていて、三嶋大社が三島の中心であることをあらためて感じました。

ここに素晴らしい “だがしや楽校” の会場が出来上がりました。きょうは子どもたちを迎えてのイベントになりますが、皆さんも子どもたちと一緒に楽しんでいただければと思います。

天気にも恵まれました。1 日よろしくお願いします。



◎豊岡武士三島市長の挨拶

天然記念物のキンモクセイも香る素晴らしい天候の下、盛大に、かつ楽しく開催されることに對してお祝い申し上げます。主催する地域活性スクランブルフォーラムのご努力と協力団体の皆様の熱い思いに感謝いたします。きょう 1 日、子どもたちが、お手伝いをしながら、楽しめるよう、皆様のご尽力をお願い申し上げます。

今の子どもたちは、お手伝いをしたり、お駄賃をもらったり、駄菓子屋に行ったりすることが少なくなっています。きょうはここ三嶋大社の境内で、子どもたちに体験してもらい、駄菓子屋の楽しさを知ったり、さらには人の役に立つことを知ることで、子どもたちは大きく成長することでしょう。その手助けを皆様が担うわけで、敬意と感謝を申し上げます。

子どもは三島の宝であり、社会の宝です。人財こそが国の発展の原動力ですし、地域力を高める上でも欠かせません。将来の地域や日本を背負って立つ子どもたちが、心も身体もすこやかに育つ上で、きょうの体験は貴重なものだと思います。

皆様のご努力に重ねて敬意と感謝を申し上げて、お祝いと激励の言葉といたします。



◎三嶋大社責任役員・三島市観光協会相談役及びNPO法人地域活性スクランブルフォーラム顧問：峯田さんの挨拶

“だがしや楽校 in 三嶋大社” が盛大に開催されることに對してお祝い申し上げます。関係者の方々には敬意を表します。きょうは、この “だがしや楽校” の生みの親とも言えるカバゴン先生こと阿部先生をお迎えしています。

子どもたちのお仕事体験については、47 名の地域活性スクランブルフォーラムの会員の皆様が、地域の中で存在感のある子どもたちに、将来への夢をもたせようと作られました。子どもの遊び場・居場所が少なくなっている中で、将来思い出の中に、きょうの三嶋大社での体験を語っていただくようになれば、と思います。

教育には、学校教育・社会教育・家庭教育があります。“だがしや楽校 in 三嶋大社” は社会教育として子どもたちを育もうというものです。



暑い中ですので、体調管理には気を付けられ、保護者の皆様には、子どもたちが活発に活動されるよう見守っていただきますようお願いいたします。

◎阿部進さんの挨拶

全国を巡っていますと、「三嶋大社のだがしや楽校って、どういふのですか？」とよく聞かれます。それも最初に聞かれます。これは凄いことです。“だがしや楽校 in 三嶋大社”は三島だけのイベントではなく、全国に名が知れ渡っているのです。まちを挙げての大人と子どもたちのお祭りが8月最後の日曜日、三嶋大社という素晴らしい場所で開かれます。これは全国区です。胸を張って誇るべきことです。

きょうは今年初めての外出ですが、似顔絵を描かせていただきます。よろしくお願いします。



◎主催者：一杉さんから進め方の説明

きょうの進め方として、子どもたちは上手に“カバゴン券”を手に入れ、大人たちは上手に“カバゴン券”を使って子どもたちに仕事をしてもらい、保護者の皆さんは口を出さずに見守っていただき、きょう1日楽しく過ごしてください。



◎NPO法人地域活性スクランブルフォーラム教育部会長の鈴木勝博さん（主催者）の挨拶

大勢の人たちが来られると思います。熱中症に注意してください。何かありましたら、私に声がけください。



さあ、いよいよ“だがしや楽校 2011 静岡 in 三嶋大社”の始まりです。

▼ハローワーク



ここで子どもたちは、お仕事を探します。お仕事の内容はいろいろで迷ってしまうほどですが子どもたちは自分の意思でお仕事を決めていきました。

今回は“お仕事体験（飲食・物販）ゾーン” からご紹介していきましょう。

《お仕事体験（飲食・物販）ゾーン》

▼ヨーヨー釣り・面白飲料・・・三丸機械工業(株)



おみせでは、光るウチワを販売しているほか、ヨーヨー釣りもできますし、いろんな飲み物も販売しています。



毎年“だがしや楽校 in 三嶋大社”に参加している三丸機械工業は、酪農機械及びこれに付随する機器の製造販売をはじめ、食品・医薬品機械・機器類の設計・製作販売及び各種プラントを営業内容とする三島市に本社工場を置く企業です。

▼オモチャのマルヨ（オモチャ販売）・・・(有)富士マルヨ塗装工業



オモチャは子どもたちに大人気です。富士マルヨ塗装工業は、富士市にある建築塗装、塗装工事、外壁塗装などを行う会社です。

▼羊毛ボール作り・ドイツ小物販売・・・シュタイナー「こびとの庭」

子どもたちが丸いモノで何かしています。早速インタビューしてみましょう。

丸くした羊毛に色を付けて、石鹼の水でコロコロさせて、ボールを作っています。お子さんが泡の中で遊びながらおもちゃを作るという体験です。



“こびとの庭”は、主にシュタイナー教育と幼児教育をやっています。その一環として、きょうは小さいお子さんに体験してもらっています。

私たちが住んでいる裾野市を中心に静岡県東部で活動しています。シュタイナー教育を広めるためのアイデアを紹介する活動を昨年からやり始めました。きょうのようなイベントをやったり、少人数のお子さんに自宅へ来てもらい、シュビールグルッペ（プレ幼稚園）を体験してもらうなどの活動を行っています。

自分（ご主人）の仕事の関係でドイツに3年間滞在していた時に、妻がシュタイナー教育を学びました。そこで学んだことを活かし、日本の人たちにも知ってもらうために活動しています。

3歳までのお子さんは物覚えが凄く良いので、自分の子は天才だと思い、早期教育に走ってしまう親御さんがいます。しかし、そうではなく、まずは自然に触れて、冷たい水に触れたら「冷たいね」という体験を通して、心を育ててほしい、というのがシュタイナー教育です。

テレビだけから情報を得て、それで決め付け、固定観念で子どもに教えるのではなく、子どもが感じて育てていくのがシュタイナー教育です。そういうのを広めたいと活動しています。

シュタイナー教育で言っているのは、子どもは小さな大人ではない、子どもは子ども、子どもには子どもの世界があります。今の社会は大人の目線で子どもに「あれやれ、これやれ」となっていました。

昔の駄菓子屋は、そうではなかったはず。シュタイナー教育はかつての駄菓子屋に共通していると思います。



▼ナチュラルカレー・流しそうめん・・・NPO法人自然派ママたちの座談会

私（山口）が取材した時には、すでに売り切れてしまいました。

ナチュラルカレーは、自然食というか良い素材を使いました。スーパーにはない素材を、三島にある小さなお店から仕入れていました。

NPO法人自然派ママたちの座談会は、子育てのことから子どもの健康、食育、環境にいたるまで、月に1回、成真寺（三島市）本堂で、各分野の専門家を講師として招きし、座談会を開いています。参加者は20代から60代、時には男性の参加があるそうです。



▼飲料・焼きそばなどの販売・・・雄大グループ



雄大グループとは、静岡県沼津市を中心に外食産業、レジャー産業、情報通信産業など様々な事業を展開する複合エンターテインメント企業。この日は、焼きそば・タコ焼き・ポテトフライ・フランクフルト・唐揚げ・飲料などいろんな美味しいものを、その場で作って販売しています。



▼かき氷販売・・・イーラパークのかき氷屋さん

イーラパークとは、伊豆・箱根・富士山地域の地域ブログポータルサイト。4000人近くの人が当サイトでブログを書いているそうです。



STRIKE NINEでは、12回の投てきで、9つの窓にボールが全部くっ付くと、かき氷がもらえます。写真は1回も外さず9回で9つの窓にボールが全部くっ付くとパーフェクトの瞬間です。

▼手作りの子供向けのおもちゃ・・・手作りヒコーキミヤシタ



ちょっぴりこわそうなおじさんのおみせですが、子どもたちも、そして大人たちにも大注目されていました。竹とんぼを輪ゴム式パチンコで飛ばしたかと思うと、上空ではゴムの力でヒコーキが飛んでいます。展示されているおもちゃは、全部ミヤシタさんご自身の手作りです。



インタビューしてみましょう。私が「山形から来た者ですが」と切り出すと「山形のどこから？」と聞かれてしまいます。それで「米沢です」と言いますと・・・（以下は、なるべくおじさんの口調に沿って書きます）

米沢は幾度も行ったことがあるよ。（米沢の）織物の会社へ幾度も行ったことがある。若い頃、

織物の仕事をやっていたから。まだ（米沢）駅舎の前の宿がさあ、木造の3階建ての頃だったよな～。



（手作りおもちゃ作りは）仕事が全部終わって、やることないから始めたんだ。ここにあるのは全部自分で作った。こういうイベントに参加するのは初めて。今までは自宅あたりで、子どもたちと遊んでいたんだ。

▼即興似顔絵・・・にがお絵や



▼セラピードッグ書籍・ヨーヨー販売・・・NPOしずおかセラピードッグサポートクラブ



ここでは、セラピードッグ書籍を販売しています。なお、NPOしずおかセラピードッグサポートクラブでは“ワークショップゾーン”にもおみせを出しています。

▼富士宮やきそば・・・(株)フーディウム・インターナショナル

昨年に引き続きの出店です。富士宮やきそばは、今年もB級グルメグランプリを目指します。



豚肉の脂身を揚げた肉カスが入っているのが富士宮焼きそばです。

富士宮やきそばは定義があって、富士宮市内の製麺所（マルモ食品、曾我めん、叶屋、木下製麺所）から麺を仕入れることが条件です。

定義を管理するのが、2000年に立ち上げられた「富士宮やきそば学会」で、2004年には「富士宮やきそば」と「富士宮やきそば学会」が「NPO法人まちづくりトッランナーふじのみや本舗」によって商標登録されましたので、許可なしで「富士宮やきそば」を名乗ることはできません。



▼みしまコロッケサンド・・・ハートフルダイニングおんふらんす

人気の“みしまコロッケサンド”。私（山口）が訪れた時には、すでに売り切れていました。しばらくして、第2弾が入荷し、販売再開です。



“おんふらんす”は、この日の“夜のだがしや楽校”の会場です。オーナーシェフの田中季次さんとも1年ぶりの再開です。

▼アイスコーヒーの販売 ほか・・・伊豆のコーヒー屋さん



伊豆のコーヒー名人である清水一穂さんとも1年ぶりの再開です。1年前は清水さんからコーヒーの話をタップリお聞きしました。



今年は、子どもたちがコーヒーのいれ方を教わっています。辺りに漂うコーヒーの香り。なんとも言えません。癒されます。

▼フランクフルトの販売・・・ユニフォームなら八木繊維



今年もフランクフルトやツクネで出店の八木繊維は、富士市にある各種ユニフォームを営業品目とする会社です。今年も笑顔いっぱいです。

▼雑穀と雑穀を使ったメニュー・・・(株)WAKOビューティープロモーション



雑穀米を使ったどんぶりを販売しています。

美肌効果とか健康のために良いとされる雑穀が今注目されています。雑穀は、ビタミンやミネラルが豊富です。ご飯だけでなく、具にも雑穀が入っています。



WAKOビューティープロモーションはエステサロンです。だがしや楽校は今回初参加です。

▼アイスクリーム販売・・・(株)STK製作所



STK製作所では部品加工を行っていますがこの日の“だがしや楽校”のために特注でアイスクリームの絞り器を作りました。会社は三嶋大社から約5kmのところにあります。

おとうさんがアイスクリームを絞ろうとすると、お子さんが「オレの出番だ」と叫んでいたのが印象的でした。



▼お弁当・みしまコロッケ・・・桃中軒

みしまコロッケのほかに、桜えびのおにぎりや港あじ鮓を販売しています。



桃中軒は、沼津市の本社を置き、沼津・三島・御殿場などで弁当・仕出し製造販売などを手掛けている会社です。創業は明治24年です。

▼天然水の販売・・・(株)ミロク



1年前は、私が訪れると、商売&インタビューそっちのけで米沢談義が展開したおみせです。

今年は、災害義援金付き天然水も販売しています。「来年もやります」と早くも1年後の話をされました。

なお、(株)ミロクでは“ワークショップゾーン”にもおみせを出しています。



ここまでチラシに書かれている“お仕事体験ゾーン”のおみせをすべてご紹介しましたが、まだ紹介していないおみせがあります。

▼I LOVE MISHIMA



三島市観光課の企画でモザイク画を作っています。そのために三島の皆さんに三島の良いところなどをボードに書いてもらって写真に撮らせていただいています。市民ひとり一人が三島のアピールをしようというのが目的です。



とインタビューの答えてくださったのは、三島市・緊急雇用のスタッフの人たちです。

作ったフォトモザイクは“I LOVE MISHIMA”（アイラブみしま）のホームページで公開し、すべて溜まったらポスター化も考えています。

▼チャリティー餅つき会



この日の“だがしや楽校 in 三嶋大社”には、東北・宮城からのおみせも出されました。



おみせのスタッフは、南三陸町の2名など、宮城県から11名です。この内、私（山口）のインタビューに答えてくださった南三陸町からの漁師さんは、漁船も自宅も全部津波で流されました。私の「これからの復興については」という質問に対して、笑顔で「がんばるしかありません」と答えてくださったのが印象に残りました。



“チャリティー餅つき会”というおみせでは、つくたてのお餅を食べていただき、お寄せいただいた募金は南三陸町への義援金とします。お餅はきな粉とゴマでしたが、つくたてということで、コシがあって、とても美味しいお餅でした。



おみせでは、福島産の桃も販売されましたが、完売しました。

主催者の一杉さんとの交流があり、7月・8月には、宮城県南三陸町志津川の中学生が野球の練習試合をするため、こちらに来ました。逆に一杉塾が宮城へ行って教えているという交流もあります。それで、この日の出店になりました。きょうは、何人か被災した人たちも来ています。



《だがしやLIVE!／コンサート》

芸能殿での“だがしやLIVE!／コンサート”をご紹介します。今年は先に紹介した“白隠太鼓”を含め、13団体により11のパフォーマンスが繰り広げられました。ここでは、その中から、私（山口）が撮影できたものをご紹介します。



宗田悠（民族楽器奏者）



子供じゃぎり（東本町一丁目じゃぎり会）



子供じゃぎり（川原ヶ谷子供じゃぎり保存会）



子供じゃぎり（中子供会）



白道ジュニアバンド（鼓笛隊）



どんぐり's（ママバンド）



ワイルドボア（ブリティッシュブラス）



三島市民吹奏楽団



佐野あつよし with フレンズ
(トランペット&ピアノ)



ミシマ
(ヒップホップ)

ほかに、喜酔会と You Ballet Studio (バレエ) のパフォーマンスがありました。

《三嶋大社の風景》

ここでひと息入れて、三嶋大社の風景をご紹介します。



正面鳥居



参道（お仕事体験ゾーン）



厳島神社



本殿

《お仕事体験》

子どもたちのお仕事体験の様子をご紹介します。いろんなお仕事体験があります。



理事長・古屋さん自ら子どもたちに紹介したお仕事は“拍手係”。“だがしやLIVE”を盛り上げるお仕事です。おみせでの呼び込みや、会場をまわってのPRのお仕事もあります。



“だがしやLIVE”での司会のお仕事もありました。



しっかり発声練習をしてから、司会に臨みます。

司会では、それぞれ自分の夏休みの思い出を紹介してから、演奏者を紹介していました。



ミシマ（ヒップホップ）では、いっしょになってダンスパフォーマンスするのがお仕事です。



それでは“ワークショップゾーン”のおみせをご紹介しますまいりましょう。

《ワークショップゾーン》

▼折り紙飛行機作りと科学遊び・・・ナラハシネット



広告紙を使って大きな紙飛行機を作ります。広告紙でもうまく飛ぶのかな・・・。

その隣りでは、カバゴン先生親子が楽しいことを始めました。早速覗いてみましょう。

▼カバゴン先生の似顔絵

スラスラと似顔絵を描き上げるカバゴン先生こと阿部進さんの姿は、山形で開催された“だがしや楽校全国寄り合い”でのカバゴン先生を思い出しました。あの時は知らぬ間にプレゼンテーションする人たちの似顔絵を描いていました。



私(山口)のことを憶えてくださったカバゴン先生としばらく談義することができました。



▼カバゴン先生ジュニアのおみせ



ペットボトルからの水の垂直噴射。それに巨大シャボン玉です。さすがは息子さんです。

▼プラバン工作・・・三島ジュニアリーダーズクラブわかば

毎年“だがしや楽校 in 三嶋大社”に参加しているジュニアリーダーズクラブわかば。今回はお馴染みプラバン工作です。子どもたちだけでなく、大人の人たちも真剣に、そして楽しそうに取り組んでいました。



昨年も紹介しましたが、三島ジュニアリーダーズクラブわかばは、三島市子ども会連合会所属のジュニアリーダーズクラブで、アウトリーダーの集まりです。子ども会のリーダー（小学5年・6年）をインリーダーと言います。インリーダーを育成するのがアウトリーダーで、中高生がメンバーです。現在は40名です。



▼ハーブの蒸留水作り・・・(株)ミロク



“お仕事体験ゾーン”でもおみせを出していたミロク。今回初めて“ワークショップゾーン”にもおみせを出しました。

この日は、開発中の天然水を紹介するためにおみせを出しました。これは、エッセンシャルオイルを採るための水蒸気蒸溜法で出来る芳香蒸留水を天然水にするもので、11月に発売する



予定です。

この天然水は栄養成分が濃縮されています。ハーブティーと違った、お水感覚でハーブを飲んでいただきたいという思いが込められています。

▼輪投げ大会・・・いきいきクラブ三島（三島市老人クラブ連合会）



最近の活動としては、6月22日、市民文化会館大ホールにて、いきいきクラブ三島芸能祭が開かれました。また、9月22日には、第36回“いきいきクラブ三島輪投げ大会”が、県総合健康センターにて開かれます。



▼レンガで橋を作る 歩いても壊れない橋・・・三島函南沼工会 沼工土木科



沼津工業高校土木科による“レンガで橋を作る 歩いても壊れない橋”は、昨年が続いてのワークショップです。

▼布ぞうりを作ろう！・・・三島函南沼工会



▼しめなわをつくろう！・・・三嶋大社



昨年の第3回から三嶋大社でも“しめなわをつくろう”を出しました。「三嶋大社のことを子どもたちにもっと知ってもらいたい」という思いがあります。



▼三島宿再発見クイズ・・・みしまプラザホテル



“だがしや楽校 in 三嶋大社”ではお馴染みになったワークショップです。

みしまプラザホテルの3階には、江戸時代後期の三島の様子を描いた地図（複製）が展示されています。この地図を使ってのクイズです。子どもだけでなく、大人の皆さんもクイズに挑戦しています。



▼社長さんになろう：千羽鶴折り・・・(株)Dream&Network



“社長さんになろう”も“だがしや楽校 in 三嶋大社”ではお馴染みになったワークショップでしたが、今年は大震災もあり、趣を変えて千羽鶴で“和”を描くことにしました。



▼三嶋暦の印刷体験・・・三嶋暦の会

こちらも“だがしや楽校 in 三嶋大社”ではお馴染みのおみせです。



三嶋暦の会は、三嶋暦をととして郷土の歴史と文化を学ぶことを目的に、三嶋暦師の館の案内と解説、三嶋暦に関する講習会の開催、三嶋暦に関連する文化団体および法人との交流、三嶋暦およびその他の関連する歴史資料の発掘・調査・研究、郷土の歴史・文化の振興活動などの活動を行っています。現在新規会員を募集しているそうです。

▼浦島太郎になってみよう！（肩たたき教室）・・・特別養護老人ホームいづテラス

去年は車イス体験のおみせでしたが、今年は肩たたき教室のおみせです。「疲れたおとうさん・おかあさんの肩を叩いてあげましょう」というわけです。



特別養護老人ホームいづテラスは、2008年6月に開設した三島市内で初の全個室ユニットケアの施設です。スタッフは60名。利用者は現在80名です。

▼ゴム鉄砲・・・ボーイスカウト三島地区

昨年が続いて“割り箸ゴム鉄砲”です。

ボーイスカウトとは、イギリス発祥の、青少年の健全育成を目的とした世界規模での青少年運動です。三島には8団のボーイスカウトがあります。



昔ながらの“割り箸ゴム鉄砲”。子どもだけでなく、大人にも大人気でした。

▼動物愛護のぬりえ教室・・・NPOしずおかセラピードッグサポートクラブ

“お仕事体験ゾーン”でもおみせを出していたNPOしずおかセラピードッグサポートクラブは“だがしや楽校 in 三嶋大社”初参加です。



ぬりえを通して、犬のことを知ってもらい、NPOの趣旨のひとつである「捨て犬を無くそう」につなげます。ぬりえには“犬の十戒”ということで、犬を飼う時に認識しなければならないこと、例えば「10 数年後には辛い別れが訪れること」など 10 項目が記されています。

NPOでは、セラピードッグの活動（お年寄りや障がい者のところへ犬を連れていくことで元気付ける活動）をしている団体へのサポートを行っています。活動をはじめて7年ほどです。また、会員は40名ほどいます。

▼マイ箸作り・竹とんぼ・昔遊び・・・あまぎ自然学校



クラフトタイプの竹を削ってマイ箸を作ったり、竹を少し削るだけで出来る竹とんぼを作ったり、けん玉などの昔遊びができるおみせです。



あまぎ自然学校は、天城高原・東急ハーベストクラブの近くにあります。

この7月9日に開校したばかりで、ツリーハウス作り・竹マイ箸作り&流しソーメン・ダッチオーブン&パン焼き・クラフト体験・夜のドラム缶風呂・夜の探偵団・手作りおもちゃ箱などのプログラムがあります。スタッフ3名、ボランティア1名で行っています。

▼打ち水



▼ウォークラリー



今年の“打ち水”は、“ワークショップゾーン”中央の“遊びの広場”にて、子どもたちが自由気ままにやっていました。これで良いんです。

今年も“だがしや楽校 in 三嶋大社”と同時開催されたのが第14回『街中がせせらぎ』ウォークぶらり～（主催：三島商工会議所）です。このウォークラリーは、平成10年より行われているもので、JR さわやかウォーキングとのタイアップでもあります。“三島市四大ウォーク”にも認定されているウォークラリーです。

写真は、参加者が“だがしや楽校 in 三嶋大社”に立ち寄った時の様子です。

三島市には、たくさんのウォークラリーがあります。

ちなみに、“夜のだがしや楽校”と『街中がせせらぎ』ウォークぶらり～の反省会は、今年も同じ会場“おんふらんす”でした。ということで、2倍盛り上がりました。

▼パステル和（NAGOMI）アート・・・M-net 市民大学

M-net とは、静岡県を中心にひろく教育活動をおこなっている総合学習支援グループです。さまざまな年齢や立場での「学びたい」という意欲を支援しています。

M-net 市民大学では、主に一般の方を対象に、各種カルチャー講座を毎月開催しています。健康・美容・趣味・教養・資格取得など講座のテーマは多岐にわたります。



M-net 市民大学の中で“パステルNAGOMIアート入門講座”を開いているのが、渡邊慈子さんです。渡邊さんとも1年ぶりの再開です。渡邊さんのお話です。

1年前もパステルアートのおみせでしたが、今回は講座の受講生である中学1年生が先生役で参加しています。その中学1年生が通う中学校では、翌日（8月29日）が始業式ですので、夏休みの宿題を全部終わらせて、参加してくれました。子どもに教えていくことで自信が付いていくと思います。

“パステルNAGOMIアート入門講座”の受講者は十数名。その内きょうは4～5名来ていただきました。



▼パソコンでシール作り♪・・・M-net アビニオンスクール

M-net アビニオンスクールについても渡邊さんから説明していただきました。



M-net アビニオンスクールとは、通信制高校のサポート校で、静岡県教育委員会の正式な認

可を受けた技能教育施設です。不登校や発達障がいの子どもたちがみんな一緒になって、共に学び共に育つ「共育」をモットーに、少人数制のアットホームな雰囲気の中で勉強しています。

その生徒たちが、“パソコンでシール作り ♪”というワークショップを考えて、子どもたちに教えています。

M-n e t アビニオンスクールではパソコンの授業がありますので、生徒たちは自信を持ってパソコンができます。これは誰よりもがんばってできる部分です。そこで、子どもたちに絵を描かせて、それをシールにして印刷するというワークショップを自分たちで考えたのです。

生徒たち、最初は立っただけでしたが、次第に子どもたちに教えています。私たちが「やれ」とか「参加しろ」と言わなくても、生徒たちが自然に子どもたちの中に入ってやっているのを見ますので、“だがしや楽校”という場というのは「凄い」と思いますし、生徒たちにとっても学びになっていると思います。

▼パズルで遊ぼう／お手玉教室・・・沼津市老人クラブ連合会



沼津市老人クラブ連合会も“だがしや楽校 in 三嶋大社”には毎回参加しています。竹で作る風車のコーナーもありました。



▼防災紙しばい・液状化体験・・・復興と地域防災を考える会

311 後、現地の支援をする復興と、地域防災を考える会を立ち上げました。

これまではいわき市（ひさの浜）を中心に支援してきました。その様子は、インターネットの動画サイトでも紹介されています。

その後、被災地支援が一段落ついてきました。これからは地元地域の防災へシフトするという

ことで、三島・富士・沼津をエリアにして活動しています。メンバーは徐々に増えて 50 人ほど。



きょうは、子どもたちへ防災について啓発しつつ、新しいゲームを取り入れ、三島の防災啓発活動に使えないかということで、防災紙しばいと液状化体験を、トライアルでやっています。



↑これが液状化を再現する装置です。

▼復興支援 You can help 手紙を書こう・・・三島市議会議員 岡田美喜子



葉っぱの形をした紙に、被災地の子どもたちへのお手紙を書いてもらい、それをボードに貼り大きなツリーにして送る取り組みです。



ここに来ている子どもたちが被災地に関心を持ってくださることが大切です。

▼だだちゃ豆を食べよう・紙しばい・・・だがしや楽校 山形

だがしや楽校だがしや倶楽部（山形県鶴岡市）、今年のおみせは、創作紙芝居劇団“だだちゃまめ”の中村さんによる紙芝居と山形県庄内地方特産の枝豆“だだちゃ豆”を組み合わせました。



はじめに、この紙芝居で使うことができるマネーで駄菓子を買います。



紙芝居はクイズから始まります。「この人、だ〜れ」や「この県、何県？」などのクイズです。まだ問題を出していないのに手を挙げるお子さんや、山勘で答えるお子さんなどで、大盛り上がりです。



クイズに当たるとご褒美がもらえます。もちろん“魔法使いサリー”を当てたおかあさんにもご褒美です。

次は、創作紙芝居です。いろんな桃太郎の話に大爆笑です。



「3枚の紙で紙芝居ができます」という中村さん。前に出て自分で考えた物語りを披露するお子さんです。

紙芝居の定番“黄金バット”の始まりです。

話が進んで、いよいよ黄金バットの登場です。黄金バットが登場する時に欠かせないのは、あの高笑いです。



それでは、見ている子どもたちにも一緒に高笑いをしてもらいましょう。

ハッハッハ～！ ハッハッハ～！ ハッハッハ～！



紙芝居の後は、子どもたちにお手伝いです。ゆであがったばかりの“だだちゃ豆”を会場に来ている人たちへプレゼントするお仕事です。

三島の皆さん、“だだちゃ豆”のお味はいかがでしたか。

なお、鶴岡からのスタッフは、代表の阿部等さん、深沢さん、中村さん、それに山形市からのDoi さんです。

これでチラシに掲載されている“ワークショップゾーン”のおみせはすべてご紹介しました。でも、もう一人ご紹介したいと思います。とっても目立つ背の高い男性の方です。

▼バスケットボール・・・阿部理さん



横浜市在住の阿部理さんは、プロバスケットボールプレイヤー・プロバスケットボールコーチです。“だかしや楽校”もご存じで、私（山口）としばらく談義しました。

1970 年福井県生まれの阿部さんは、仙台市で少年時代を過ごします。ミニバスケ時代から全国大会を経験し、日本リーグでは4つのチームに所属し、リーグ優勝に貢献しています。その後、NBAにも挑戦していますが、現在は国内でコーチとして活動しています。

右の写真は、一杉さんのほかは、みんな阿部さんによる記念撮影です。



▼駄菓子屋・・・三島信用金庫



よく学び・よく遊んだ子どもたちは、カバゴン券を手にとって、駄菓子屋さんにて気に入った駄菓子と交換していました。



さあ、6時間という“だがしや楽校”では最も長い時間の開催である“だがしや楽校 2011 静岡 in 三嶋大社”。でも、楽しい時間というのは、アッと言う間に過ぎるものです。

いつの間にか終了時刻の午後4時になってしまいました。

《閉会式》

主催者を代表して、NPO法人地域活性スクランブルフォーラムの前田さんから挨拶がありました。

◎前田さんの挨拶

皆様大変ご苦勞様でした。

参加された皆様には、子どもたちの笑顔と触れ合うことができた1日になったと思います。心配された天候にも恵まれ、健康上の問題もなく、無事に終わろうとしています。

きょうは子どもが主役の活動でした。子どもは地域の宝です。地域の方々がほめたり、時には叱ったりして、地域の人たちといっしょに子どもたちを育てていく、そんなまちづくりを地域活性スクランブルフォーラムは目指していきたいと思っています。

地域活性スクランブルフォーラムでは、10月にはペタングという競技を、三世代交流を含めた中で行います。また、三島市内が音楽であふれる、そんなまちづくりを目指して、イベントを開催する予定です。



まだまだこの地域には、掘り起こせば素晴らしい財産があります。皆さんと共に地域活性スクランブルフォーラムは努力・精進してまいりますので、これからもよろしくお願い申し上げます。

本日はありがとうございました。

《振り返り》

不思議としか言いようありません。

この日の三島市は朝から強烈な夏の太陽が照り付けます。だから、日中は相当暑くなると予想しました。ところが、三嶋大社の境内に入りますと、暑いではありますが、思ったより暑くないというか、日中は涼しく感じることもあったほどです。

それは1年前も同じでした。それで、カバゴン先生の言葉を思い出しました。「“鎮守の杜”が私たちを守っている」ことを。1年前も暑かったのですが、境内の“鎮守の杜”が暑さをやわらげてくれました。

今年も“鎮守の杜”に守られて“だがしや楽校 2011 静岡 in 三嶋大社”は開かれたのです。

昨年に続いて拝見しますと、私（山口）の頭の中での話になりますが、おみせ・屋台を3つに分けることができました。

1つは、昨年と同じおみせです。こういうおみせは、私も安心して取材することができます。そして、「三嶋大社に戻ってきたんだな～」と実感します。

大切にしたいおみせでもあります。三島宿再発見クイズや三嶋暦がその例です。大事な地域の財産です。富士宮やきそば、みしまコロッケなどもその例です。1年前じっくりコーヒーの話をしてくれましたコーヒー屋さんとの再開も嬉しかったです。

“レンガで橋を作る”（沼工土木科）や“ゴム鉄砲”（ボーイスカウト三島地区）からは信念のようなものを感じました。

1つは、昨年も参加していましたが、おみせの内容が少し変わったり、名前を変えて出店しているケースです。「おもしろいな～」と感じました。

渡邊さんとは再開でしたが、今年は“M-net 市民大学”の“パステル和（NAGOMI）アート”として参加しました。渡邊さんとは“夜のだがしや楽校”でも談義しましたが、不登校や発達障がいについても調べている私（山口）としては、渡邊さんの活動は非常に関心があります。

Dream&Networkの“社長さんになろう”、今年は千羽鶴折りでした。特別養護老人ホームいづテラス、今年は肩たたき教室でした。それぞれ考えておみせを出していました。

三島ジュニアリーダーズクラブわかばのプラバン工作も、そういう視点で同じように評価できます。

そしてもう1つは、今回初参加のおみせです。新鮮さを感じ、また“だがしや楽校 in 三嶋大社”の広がりを感じました。

（株）ミロクは“ワークショップゾーン”に初出店でした。NPOしずおかセラピードッグサポートクラブ、あまぎ自然学校、NPO法人自然派ママたちの座談会なども初参加です。

手作りヒコーキミヤシタのおみせは、子どもも大人も多くの方が注目していました。

そんな中、初参加のおみせで、私が特に注目したのは、シュタイナー「こびとの庭」のおみせです。ご夫婦でやっていたこと、そして「子どもは小さな大人ではない」という言葉に共感しました。このおみせ、“ワークショップゾーン”の方が良かったのではないかと感じました。

震災関連のおみせが出されたことも、今年の特徴となりました。

“復興と地域防災を考える会”のおみせ、『復興支援 You can help 手紙を書こう』というおみせがその例です。Dream&Networkも震災を受けて、千羽鶴折りにしました。

そして何より、宮城県からの人たちによる“チャリティー餅つき会”が注目されました。宮城県の人たちと会場に来られた地元の人たちが普通に会話している風景に、逆に感動したのであります。南三陸町からやって来た漁師の方の笑顔が忘れられません。福島産桃も完売しました。

このように、様々なおみせが出店されました。これは“だがしや楽校 in 三嶋大社”の揺るぎなさ・確固たる信念を感じる一方で、新たな広がり・新たな展開を感じるもので、とても興味深い“だがしや楽校”になりました。

カバゴン先生が楽しそうに似顔絵を描いていました。開会式での挨拶も力強かったことを報告します。息子さんも、楽しそうに子どもたちと遊んでいました。

ワークショップに・お仕事体験に取り組む子どもたちの積極さ、元気良さにも感動しました。これだけ前向きに取り組む子どもたちの姿を見ますと、この地域の将来は「明るいぞ」と感じました。そして「このような子どもたちが持っている力を大人はもぎ取らないでほしい」と願うばかりであります。

よく見ますと、少数ですが、中には、自分の意思でワークショップに取り組んでいる子どもに対して、どうしても手を出してしまうおかあさんがいたこともお伝えしなければなりません。

ステージでは多彩なプログラムが催されました。ただ、音響については、スピーカーをおみせの近くに設置したため、例えば“だがしや楽校 山形”での“紙芝居”（中村さんの声）が聞き取りにくくなるなどの現象がありました。

ステージの音響はステージ周辺に留めるべきです。そうすれば、“ワークショップゾーン”の雰囲気・“だがしや楽校”らしい雰囲気を、さらに醸し出すことができます。

たくさんのおみせが出された“だがしや楽校 2011 静岡 in 三嶋大社”でしたが、すべてのおみせを丹念に巡りましたので、ひとつひとつのおみせの思いを感じることができましたし、新たな出会いもたくさんありました。

ということは、『自分みせ』である“だがしや楽校”とは、おみせ・屋台を出す人たちが楽しむ場であることは言うまでもありませんが、“だがしや楽校”を楽しいものにするかは、そこに集った人自身の動き方・関わり方・取り組み方にもよるのです。つまり、みんなが主役、それが“だがしや楽校”なのです。

今年は、これまで“だがしや楽校”が開かれている地域では、その後、その地域で“だがしや楽校”が広まっているのか、どのように展開しているのかを確認することも私の命題です。

この視点で申し上げますと、これまでお伝えしているように、着実に広まっていることを確認することができました。おみせの中には早くも来年の話が出るほどです。

カバゴン先生からもあったように、もはや全国区と言える“だがしや楽校 in 三嶋大社”。これからの更なる展開が、ますます楽しみになりました。

主催者であるNPO法人地域活性スクランブルフォーラムの方々へは、そのご努力に対して敬意を表すると共に、“だがしや楽校 2011 静岡 in 三嶋大社”に関係したすべての皆様に感謝して、報告をおしまいにします。ありがとうございました。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター